

再生路盤材にフライアッシュを活用

大成ロテック



大成ロテックは、フライアッシュを利用した山口県のリサイクル認定品「リサイクルビーズ」を使った再生路盤材

「RCB O-40」を開発した。道路資材として下層と上層ともに粒状路盤材の規格値を満たしており、幅広く利用できる。同社は今後、積極的に提案活動を進めていく。

開発は大成ロテックと前田道路JVによる防府合材工場が進められた。20日には山口県のリサイクル認定証を受領した（写真）。

リサイクルビーズは、石炭火力発電所から排出されるフライアッシュとセメントを混練して造粒したもので、鹿野興産によりリサイクル認定を受けている。

「RCB O-40」は、従来品と比べ強度が高く、上層と下層の両方に利用することで耐久性の向上に貢献する。リサイクル材を使用しているためコストも抑えられる。土壌汚染対策法に規定される各基準値を含有量と溶出量をと